

# 義太夫

義太夫協会々報  
第24号

昭和57年1月20日  
社団法人 義太夫協会発行  
〒104 東京都中央区銀座  
8-14-3 松本ビル  
TEL (541)5471

## ドースル・ドースル!! 女義!!

義太夫協会会長 吉川 英 史

「ドースル・ドースル」というのは、娘義太夫の全盛時代に、感極まった客の褒め言葉であった。「ドースル」とは「どうするか、どうしようがない。たまらん」という意味であった。しかし、ここに言う「ドースル」は、意味が違う。

わが義太夫協会には女流が多いのであるが、世間一般と同様に、高齢化が進んでいる。かつての可憐な娘義太夫も、今は芸一筋の老芸人になっている。しかし、嬉しいことに義太夫教室が成功し、今はその中からプロを志願する若手女流が、ぞくぞく出現する傾向にある。

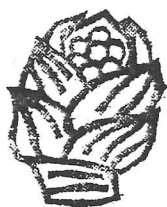
だが、協会の大きな仕事である毎月二十日、二十一日の公演で、まだ未完成の若手をどう起用したら良いのだろうか。これこそ現代の「ドースル・ドースル」である。

考えてみると、芸というものは、演奏技術だけではない。作品の問題がある。作品その他の解説の問題がある。企画のやり方の問題もある。だから、若手の演奏の未熟さを補う手段も、決してないわけではない。

例えば、二十日の公演はベテラン陣による演奏本位の公演にする。それに対し、二十一日の公演は若手による企画の面白さで客を呼ぶ公演にする。そのためには二十日の企画委

- 員と、二十一日の企画委員とを別にし、若手の会は若手の委員で企画するのも良いかも知れない。昔、ベテランで最高の竹本筑後縁を座元とする竹本座と、その弟子の若手豊竹若太夫を座元とする豊竹座が、互に競争することによって義太夫劇全体が発展したという歴史がある。今の義太夫協会の中で、ベテランと若手が競争することによって、協会に対する世間の、客の関心が高まれば幸いである。
- その若手の公演のプログラムには、次のような内容も考えられるが、どんなものか?
- (1) 義太夫の研究者を加え、その講演または解説によって、知的興味にうったえる。
  - (2) 研究的な新作も加える(例えば、朝重さんの芸術祭参加作品のようなもの)
  - (3) 義太夫節をテーマにした大学の卒業論文のやさしい紹介。
  - (4) 有名な外題の中で、若手にできる義太夫と、歌舞伎の竹本の演奏とを、部分的に比較演奏する(竹本には声色師一人を依頼し、その比較の説明は学者が受持つ。)
  - (5) 文芸名作を、義太夫節の語りの技巧を応用した朗読も加える。

(2頁下段へ)



## ごあいさつ

明けましておめでとうございます。

五十六年度は協会の仕事が続々とよく運び、五十七年度より保存会の助成金も頂けることになりました。多少にかかわらず文化庁の助成を頂けることは、この上ない義太夫界の名誉でございます。

新橋演舞場の社長、岡副様のお力添えで、四月に柿落しの演舞場ビル内に事務所を作った頂き、余分なお金は要らないからそんな心配するな、との有難いお言葉も頂きました。人間づくりの義太夫芸術に御後援下さるその有難さに、役員一同うかうかしてはいられないと張り切っております。とりわけ、昨年十二月二十日・二十一日、心身障害児のための特別公演は大入満員、若いお客様がぎっしりで、日本人になくてはならぬ忠と孝、義理と人情、近松文学の義太夫芸術が青少年に少しづつわかりかけてきたのだと、うれし涙で頭

義太夫節保存会会長  
義太夫協会副会長

豊澤仙広

を下げました。NHKにいつもより多く御寄附ができました。出演者一同大喜びで、吉川会長が御礼の言葉を述べて下さいました。これもひとえに会員の皆様を始め義太夫を御ひいき下さるお客様御支援の賜と、厚く御礼申し上げます。

尚、重要無形文化財保持者による保存会の演奏会を、一月三十日、ガスホールで開催することになりました。九十才を筆頭に、八十五、六才が三人、その他東西女義の精鋭が揃って一生懸命に舞台をつとめます故、お誘い合わせされまして、にぎにぎしく御来場の程お待ち申し上げます。

後継者づくりに命がけて勉強したり、させたりする義太夫協会、義太夫節保存会を、よろしくお引立の程、伏してお願ひ申し上げる次第でございます。

昭和五十七年新春

## 昔浪花義太夫道のしきたりと掟

相談役 豊澤 猿三郎

新年明けましておめでとうございます。

初めにお断り申し上げます。大勢のお師匠様のお名前が出ますので、紙面省略のため敬

称を略しましたことをお詫び申し上げます。江戸末期の頃、浪花の地に天満テンマンの常山と、

(1頁下段より)

(6)明治・大正の娘義太夫の髪型・服装・語り方を、現存の先輩の指導により、考証再現する(これは、国立劇場で「女義太夫の今昔」として取り挙げる可能性がある。)

無論、本格的な義太夫節の、本格的な演奏を大切にし、毎回そのためのプロを用意する必要がある。しかし、完成途上の若手が芸だけで客をひきつけることはむずかしく、芸以外のあの手この手を考えねばならないであろう。

若手の魅力には、成長ということがある。「あの人の若い時から知っているが、どこか将来性のある人だと思っていた。」役者も落語も義太夫も、芸界のファンにはこの楽しみもある。

さらに、若い女性は容姿に魅力がある。美しい衣裳・肩衣を着ければ、正に画になる。現代の娘義太夫の流行も、夢ではない。

最近、本牧亭には座椅子が用意された。まだ数に限りがあり、早いもの勝ちのようであるが、座るのがニガテな現代の客には福音であろう。新しい年から、本牧亭の公演はワンさ、ワンさの盛況になるような気がする。大入満員にしたいものである。

女義よ、ドースル? どうするものか、コースルんだ!!

難波の福という二人の俠客が居りました。天満の常山は常山席という講談の定席を経営して居りますが、生来大変な浄瑠璃好きで、文楽其の他の太夫・三味線の人達と親しく交際して居りました。其の常山に万延元年（一八六〇年）男の子が生まれました。取るものも取り敢えず仲良しの初代鶴沢戈治・後の竹沢権右衛門の弟子として、生れたばかりの子を義太夫因講へ入会させました。（註・因講は同日に二人入会しても先へ届け出た者が顔附が一枚上になります。）其の子が寺子屋へ通うようになると、帰りに戈治の家へ稽古に参ります。戈治の初めての弟子なのでとても可愛がり、戈六と命名して手塩にかけて教えました。此の戈六が青年になると困ったことが持ち上りました。それは戈六が稀にみる美男子なのと、親譲りの俠氣とが仇となって、只今というミーちゃん、ハーちゃんにモテモテで稽古がおろそかになり、親の常山もほとほと困り果て、師匠の戈治と相談の上、狂言の勘当をしました。戈六は大阪にばかり陽は照らぬと、上京し稽古屋を開きました。此の時の戈六の位置は半ザワでありました。文楽には本ザワ・半ザワ・カナザワという階級がありまして、本ザワは楷書、半ザワのサワは行書、カナザワのサワは今日使っております沢という字でありました。例えば本澤は三役以上、半澤は幕内及び十兩の関取、カナ沢は幕下以下とも申しましょか。戈六が上京しましても、其の当時の東京には偉いお師匠さんが沢山おられて、三十歳くらいの三味線弾きが

上京しても、なかなかおいそれとは生活出来ません。そのうちに妻帯して二人の子供も生まれ、生活難でとても大変でした。遂に女房・子供を連れて故郷へ戻り、親や師匠の戈治に詫を入れ、文楽へ復座致しましたが、此の時の位置は雨ウタシ（註・文楽の番附は、西の内紙一枚に杵を書き、中央に横線を引き、上段に右六分くらいの欄へ出し物と太夫名、大序には十数名の太夫名、左へ二段目三段目、十段目又は十二段目の段名、及び太夫の名、附け物が出ました時は杵で仕切って並べて書きます。上段残り四分位の処へ三味線が数名、両脇及び中軸へ本澤半澤と並べて書き、中間わずかな所へ尺沢が大勢書かれます。逆も肉眼では読めません。其の三味線の人々を俗にムシメガネと呼び、又、太夫の下位の人を豆クイと申しました。其の杵の外へ書かれるのが雨ウタシです。）戈六は其の雨ウタシに書かれました。翌月杵付きの雨ウタシに格上げ名前を小さい杵でかまれます。其の次の狂言で中の元の位置に返され、名も戈造と改めました（義太夫大鑑明治三十年代参照）。暫くは何事も無かったのですが、一八九九年戈造の家内が妊娠、戈治の内室も同時に妊娠しました。戈治も六十一才の初子で後継者が出来たと天にも上る喜びです。戈造は女房にお産が遅れると師匠の子より顔が一枚下がる、早く産めやいと矢の催促、無茶な話です。此のことを戈治に御注進した者があって戈治はカンカンです。戈造にお前には戈治の名はやらん、二番弟子の大三郎に継がすと大変な

ご立腹、折も折、父の常山も死亡したので遂に大阪を発つて再び上京、子供三人を抱えて苦しい生活でした。そして遂に四十七歳の若さで死にました。葬式の時、戈治は七十一歳の老体で大阪からはるばる上京して、つめたい戈造の手を握り、わしを残して先へ死ぬやつがあるかい、此のあほうめ、と涙をとめどなく流して嘆きました。そして戈造の弟子、戈助に早速戈造を襲名するよう命じて下阪しました。無論、戈助が大阪までお供して行きました。一八九九年に戈造の子と同月に生れました戈治の子は女の子で、其の後、燕四と結婚、三代目戈治となりました。既に此の時には戈治は竹沢権右衛門となって、大正十五年八十八才の長寿を保って亡くなりました。たいそう長瀬でたいくつさまでございました。一八九九年に師匠の御内室と同時に戈造の家内が産みましたが実は私でございます。以上のお話は、父戈造が弟のように可愛がった大造、後に観西翁師・津賀太夫師・山城少掾師・少年の折、父の身の廻りのことをよく面倒みて下さった寛治師の皆さんから承った父の事を書き並べました。私も六十年前には父に劣らぬ極道を致しましたことは、お古いお方は御承知のことと、今更深く深くお詫び申し上げる次第でございます。恐惶謹言



協会の動き

昭和56年7月より  
昭和57年1月まで

〔昭和五十六年〕

7月20・21日 義太夫協会公演会 於本牧亭

7月より入場料一三〇〇円に改訂する。

7月28日 義太夫教室第三十四期 初級講習会閉講式 終了者38名

8月20・21日 芸団協助成による盛夏若手勉強会 練達の太夫・三味線が応援出演した。

8月21・22日 教師のための講習会 於本牧亭

8月25日 義太夫教室三味線コース説明会 於銀座三丁目東町会事務所

9月4日 義太夫教室語りコース開講 講師 竹本喜久太夫・竹本朝重 現在17名が継続受講中

9月8日 普及部会 於銀座三丁目東町会事務所

9月20・21日 義太夫協会公演会 20日は、永年女義を後援して下さった入船堂・都築八郎氏を偲ぶ会

9月24日 邦楽実演家団体連絡会議出席 於本牧亭

於本牧亭

9月24日 竹本講習生試演会

9月25日 学校巡演 於国立劇場小劇場

10月7日 義太夫教室三味線コース開講 講師 竹本喜久太夫、現在16名継続受講中 於銀座三丁目東町会事務所

10月13日 邦楽連合会出席 於長唄協会

10月20・21日 義太夫協会公演会 日蓮上人七百年大遠忌にあたり、日蓮に因んだ作品を演奏した。

10月27日 教師のための講習会 於本牧亭

11月2日 公演部会 於須川

11月8日 学校巡演 恩方中学校

11月20日 学校巡演 松ヶ谷中学校

11月20日 義太夫協会公演会 於本牧亭

11月21日 教師のための講習会 於本牧亭

11月26日 定例理事会 於新小松

11月27日 学校巡演 東海大学付属高校

11月28日 学校巡演 東海大学付属相模高校

12月20日 第十一回心身障害児のための特別公演(6頁参照) 於本牧亭

12月21日 昭和五十六年お名残公演 前日同様、仮名手本忠臣蔵を通し演奏した。野澤錦鈴、初舞台。於本牧亭

12月27日 祖先祭 本堂にて読経、墓参のあと懇親会。新入正会員六名の披露を行う。(竹本講習第四期卒業生、竹本泉太夫・鶴澤泰二郎。女流は、竹本朝代・竹本綾美津・竹本越君 鶴澤駒千代) 於回向院

12月28日 仕事おさめ

〔昭和五十七年〕

1月6日 仕事はじめ 於新小松

1月11日 公演部会

1月20日 義太夫協会会報 第二十四号発行

寄贈

松岡 貞二様 本牧亭写真・スライド 多数

和田 博様 綾菊通信 第二号

北川加代子様 文楽床本 八冊

鶴澤 英治様 三味線 冊 二ヶ

池田 弘一様 『日蓮記』本文 六十部

豊沢 仙広様 本牧亭客席用座イス 二十台

竹本藤太夫師御遺族様 三味線 一丁

竹本 朝代様 菓子 一本

△祖先祭にて▽ 浄瑠璃通解他図書 数冊

佐々木明郎様 酒・ビール・ジュース 多数

鶴沢駒登久様 菓子

竹本 朝代様 菓子



昭和五十五年四月に義太夫節保存会が結成され、その会員三十名が国の重要無形文化財に総合指定されました。その年の十二月に記念演奏会が東京三越劇場にて行われましたが、その第二回の会を、放送文化基金の援助の許に行うことになりました。はじめの計画では第二回は大阪で行う予定でしたが、諸般の事情により下記の如く、東京ガスホールでの開催となりました。次回は大阪か名古屋で行う予定です。

技芸研鑽と記録保存を目的とする会です。で、当日はNHKが録音し、後日ラジオ放送される予定になっております。

どうか皆様お誘い合せ御来席賜りますようお願い申し上げます。

\* 最高齢、竹本春駒(満九十才)を筆頭に東京・大阪の保存会会員が出演致します。

保存会の動き

昭和57年	1月11日	役員会	於新小松
昭和56年	8月6日	役員会	於新小松
	9月28日	役員会	於新小松
	12月15日	役員会	於新小松

重要無形文化財総合指定保持者による

義太夫節演奏会

¥2,000

とき 昭和五十七年一月三十日(土) 午後二時開演  
ところ 銀座ガスホール

主催 義太夫節保存会  
後援 社団法人義太夫協会  
助成 財団法人放送文化基金  
吉川 英史  
豊澤 仙広  
春駒 雛代

義経千本桜  
一、道行初音の旅  
三味線 鶴澤津賀昇  
ツレ 豊澤 幸治  
豊澤 幸純  
忠信 竹本 朝重  
ツレ 竹本 綾一  
竹本 幸佳  
久作 竹本土佐広  
お染 竹本 春華  
久松 竹本駒之助  
久松 竹本綾之助  
賞受人 竹本 素八  
三味線 豊澤 仙広

玉藻前旭袂  
一、道春館の段  
萩の方 竹本 越道  
初花姫 竹本 朝重  
采女之助 竹本 駒龍  
桂 姫 竹本 素八  
金藤治 竹本 素八  
三味線 鶴澤 三生  
増補大江山  
一、戻り橋の段  
若菜 竹本 住友  
実は鬼女 竹本 綾春  
渡辺ノ綱 竹本 寛八  
三味線 鶴澤 寛八  
ツレ 豊澤 幸純  
八ツ雲 豊澤 幸治

第11回 心身障害児のための特別公演

収支決算報告

<収入の部>

会場募金箱(20・21日)	44,288 円
当日入場料	25,700 円
出演者扱切符代	88,000 円
協会扱御寄附	358,000 円
<内 訳>	
土佐会様	100,000 円
新小松様	50,000 円
南方ジュロン会様	28,000 円
河野 国声様	20,000 円
横山 敏雄様	15,000 円
坂本 朝一様	13,000 円
新橋組合様	13,000 円
松尾 武市様	13,000 円
妣田 圭子様	13,000 円
池田 弘一様	10,000 円
石塚 晃玉様	10,000 円
菅 邦夫様	10,000 円
鈴木 一光様	10,000 円
宮脇 雪むら様	10,000 円
渡辺兼佐・光子様	10,000 円
和田 博様	6,000 円
竹本 扇太夫様	5,000 円
寺中 作雄様	5,000 円
中村 初波奈様	5,000 円
前田 繕子様	5,000 円
神田外語学院素八さんを 聴く会 学生有志様	3,000 円
鶴澤 重造様	2,000 円
鶴澤 駒登久様	1,000 円
豊澤 新兆様	1,000 円
収入合計	515,988 円

<支出の部>

心身障害児のための寄附金	202,618 円
本牧亭席料他諸掛	64,250 円
通信費	94,450 円
交通費	23,240 円
床世話・荷上	32,000 円
総稽古諸経費	8,170 円
謝礼・祝儀他	80,500 円
諸雑費	10,760 円
支出合計	515,988 円
差引残	0 円

義太夫協会が社団法人になった年に始まった「心身障害児のための特別公演」おかげさまで今回も左のような成果をあげることが出来ました。会員の方をはじめ、皆様の暖いお気持ちに心から感謝致しております。どうも有難うございました。

昨年は、国際障害者年でもありましたが、共催のNHK厚生文化事業団、江口常務理事の御挨拶中、「障害者を受け入れることに対して協力して頂きたい」というお言葉がとりわけ心に残りました。

尚、今回も、プログラム・切符等の印刷一切は、協会相談役の高野俊雄様がおひきうけ下さいました。併せて御礼申し上げます。

国立劇場から

資料の公開について

前号(二十三号)3頁、河野国声氏の「義太夫の振興発展と保存のために」のうち、「放送局や国立劇場などが、義太夫の名曲をたくさん秘蔵しながら、公開しないのは、芸術が人類のものであるということ知らぬもので、芸術の本城守護者の怠りだと思ふ」この部分に対し、国立劇場から次のようなお電話をいただきました。

国立劇場では、SPなどは全てテープにとり、御希望があればすぐ聴いていただける状態になっております。決して公開しない訳ではございません。詳しくは、資料部までお問合せ下さい。(要旨)

(「素浄るり定着を望む会」)

昨年十一月、義太夫教室出身および文楽勉強会「一楽会」の若い人を中心に「素浄るり定着を望む会」が発会しました。

これは、公正な立場で、あらゆる素浄るりの会を応援し、素浄るりが盛んになることを望む「とにかく義太夫が大好き」という人達による新しい動き。大変うれしく心強いニュースです。

連絡先 人形浄るり一楽会事務所内

電話(三三一)七一三七

小高 裕子

\*\*\*\*\*  
 演舞場完成間近\*\*\*\*\*  
 新しい演舞場が、日に日にその姿を顕わしてきています。事務所の移転は五月末か六月始め頃になりそうです。  
 \*\*\*\*\*

'82 都民芸術フェスティバル

# 第十二回邦楽演奏会

＊ 昭和五十七年三月七日(日)

＊ 於第一生命ホール

＊ 一五〇〇円

主催 邦楽連合会 (義太夫協会・清元協会・古典会・新内協会)  
常磐津協会・長唄協会・日本三曲協会  
後援 東京都

## 第一部(十二時半開演)

長唄 元禄花見踊 東音会女子部

義太夫 碁太平記白石噺

新吉原揚屋の段

宮城野 竹本 春華

信夫 竹本土佐菊

三味線 豊澤 仙広

新内 明鳥 鶴賀徳之助/新内仲三郎

常磐津 宗清 常磐津清勢太夫/文字兵衛

箏曲 新早さらし 富山清琴/清隆

一中 石橋 都一いき/一中

清元 座頭 清元小志寿太夫/清之輔

箏曲 梅の功 高橋栄清/鈴木清寿

(終演予定 四時)

お問合せ・お申込みは事務局まで

## 第二部(四時半開演)

箏曲 楓の花 米川文字/文勝之

新内 三勝 花園一声/新内勝一朗

義太夫 仮名手本忠臣蔵

七段目 一力茶屋の段

由良之助 竹本土佐広

お軽 竹本駒之助

平左衛門 竹本 素八

三味線 鶴澤 三生

河 東熊野 山彦ちか子/さわ子

箏曲 恋夫砧 中田博之/高野和之

清元 鳥羽絵 清元梅寿太夫/梅吉

常磐津 釣女 常磐津文字太夫/幹五郎

長唄 鏡獅子 岡安喜代八/杵屋已太郎

(終演予定 八時)

### 義太夫節保存会

伝承者研修発表会

＊二月二十・二十一日(土・日)

＊本牧亭 五時半開演

＊一、三〇〇円

五十五年四月に発足以来、精力的に行って参りました後継者育成事業の成果を御覧いただけたと思います。保存会会員が指導出演いたします。(詳細は後日御案内)

### 竹本越道古稀の会

竹本越道常務理事、芸道六十五年になります。どうぞよろしくお願いいたします。

＊四月三日(土)午後六時開演

＊三越ロイヤル・シアター

＊二、五〇〇円

三番叟・獅子舞

結城孫三郎一座

増補忠臣蔵

太夫 竹本 土佐広

本蔵下邸の段

三味線 豊澤 仙広

壺坂観音靈験記

太夫 竹本 越道

壺坂寺の段

三味線 鶴澤 三生

ツレ 豊澤 幸純  
人形 結城孫三郎一座  
特別出演 結城 雪齋

